

『栄養いきいき訪問』



『おいしく食べよう訪問』



について



# 『栄養いきいき訪問』

管理栄養士がご自宅を訪問。

食事内容等を確認し、  
お一人お一人に合った  
栄養指導を受けられる。



栄養指導を必要とする病気がある方でも  
利用できる。  
(例: 高血圧や糖尿病で通院中等)

# 『おいしく食べよう訪問』

食生活改善推進員が  
2人1組でご自宅を訪問。

食事内容を聞きとり、  
栄養バランスのよい食事を  
するための、献立・調理相談  
を受けられる。



栄養指導を必要とする病気がない方が  
利用できる。  
(例: 食がほそくて何をどう食べたらよいか、  
わからない方等)  
☆生活習慣病予防、介護予防(低栄養予防)  
につながる。

★ 両方とも、調理はありません。

## ★支援者について★

### 『栄養いきいき訪問』

#### 管理栄養士とは

- 管理栄養士は、厚生労働大臣の免許を受けた国家資格
  - 病気を患っている方や高齢で食事がとりづらい方等、一人ひとりに合わせて専門的な知識と技術をもって栄養指導を行う。
- 活動例：病院での栄養指導や給食管理、学校や地域での食育等



## ★支援者について★

### 『おいしく食べよう訪問』

#### 食生活改善推進員とは



- 市町村で開催される「食生活改善推進員の養成講座(栄養教室)」を受講して修了した方。  
(桑名市の場合、栄養、運動、食事の献立等の講義や実習を計20時間以上受講した方)。  
(食生活改善推進員の養成は、厚生労働省の通達や指導によりすすめられている。)
- 定期的に調理実習等を行っており、バランス食について学んでいる。
- 「私達の健康は、私達の手で」をスローガンに、バランスのとれた食生活を定着することを目的にしている。
- 「家族」そして「お隣さん、お向かいさんへ」と働きかけ、仲間とのふれ合いを通じて、地域ぐるみでのよりよい食習慣づくりを行う。
- 食育の推進、健康づくりの担い手として地域で活動する(ボランティア)。自治会や老人会等の連携もあり、地域のことに詳しい方も多い。

活動例:おいしく食べよう会等の数多くの料理教室や通いの場で料理を作り食べる活動(多度)等も実施している。

★費用と実施回数について★

『栄養いきいき訪問』

初回  
利用者負担 1回 600円  
(1割負担)

2～6回目  
利用者負担 1回 400円  
(1割負担)

月に1回 1時間程度  
(6回まで)

基本6回利用して  
2,600円

『おいしく食べよう訪問』

利用者負担 1回 360円  
(3割負担)

月に1回 1時間程度  
(3回まで)

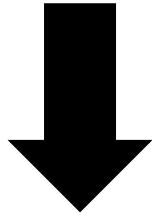
基本3回利用して  
1,080円



## ★支援内容について★

### 『栄養いきいき訪問』

管理栄養士が



栄養指導を行う

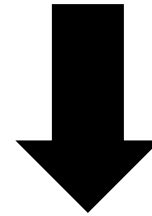
例：・高血圧や腎臓病で減塩が必要な方  
・糖尿病や脂質異常症等で食事管理が必要な方等

☆病気の進行予防のために食生活面での改善策を見つける。



### 『おいしく食べよう訪問』

食生活改善推進員が



- 食事・献立・調理の相談  
栄養バランスのよい食事ができるように支援
- 体重測定
- 味噌汁の塩分測定  
味つけに関する工夫や塩分についての支援
- 食生活の上で課題を見つける
- 社会参加を支援（料理教室等の事業紹介）

# 『栄養いきいき訪問』

(訪問型サービスC)

と

## 訪問回数

H27年度 18回

(利用者数 5名)

H28年度 37回

(利用者数 10名)

(H29.2月現在)

# 『おいしく食べよう訪問』

(訪問型サービスB)

## 訪問回数

H27年度 0回

H28年度 0回

(H29.2月現在)

# 『栄養いきいき訪問』



## の事例紹介



# 栄養いきいき訪問①

## 事例1

### 【きっかけ】

ショートステイ利用のみのケアプランであったが、低栄養のリスクがあり、『地域生活応援会議』で「栄養いきいき訪問」の提案があり開始となった。

### 【訪問の成果】

- ・顕著な体重増加はないが、食事のとり方の意識が向上。
- ・バランスよく食べることへの理解が進んだ



平成28年7月7日  
栄養いきいき訪問

## 事例2

### 【きっかけ】

糖尿病のため栄養管理が必要だが、コントロールが全くうまくいっておらず、訪問開始。『地域生活応援会議』では栄養指導のみではなく、訪問をきっかけに生活全般を見た支援を提案された。

### 【訪問の成果】

自分の殻に閉じこもりがちで、ストレスを抱えていた。まず、話を聞き関係を築き、外へ出ることを促すこととした。結果、目標の社会参加(料理教室)が可能となった。

## 事例3

### 【訪問の成果】

訪問時の何気ない会話から、検査を促し大きな病気の発見につながった。

# 栄養いきいき訪問②

## 課題

- ◆指導方法が「お話」が主である。  
⇒実際の調理等の指導ができるとより効果的。
- ◆栄養の課題に入る前に精神的な課題や家族関係など課題を複合的に抱えている方も少なくない。  
⇒栄養指導より傾聴を優先せざるを得ないこともある。




他の職種の方や家族さんとの連携が大事。

# 「栄養いきいき訪問」におけるサービス内容の改訂について ①

## ○「栄養いきいき訪問」現行サービス内容について

「栄養いきいき訪問」は、生活機能の維持及び向上を図り、要介護状態等となることの予防並びに低栄養予防及び低栄養の早期改善並びに生活の質の向上を支援することを目的とし、サービス利用者の居宅において、管理栄養士による訪問栄養指導サービスを提供している。

また、現在の運用では“食材の準備”、“食中毒”等の観点から『実際に調理はしない』となっている。

対象者	・要支援1、2と認定された方 ・基本チェックリスト該当者の方 のうち、栄養や健康に関して不安のある方	
訪問内容	栄養指導（例：高血圧で減塩が必要な方など）	
費用	初回 利用者負担 1回 600円 2～6回目 利用者負担 1回 400円	
実施回数	月に1回 1時間程度（6回まで）	
注意点	① 毎回、訪問時に利用者負担金を徴収します。おつりがないようにご準備下さい。 ② <u>実際に調理はしません。</u>	

現行のサービス内容においては、調理はしないこととなっているため、口頭によるアドバイスのみによる栄養指導を行っている。

（栄養いきいき訪問チラシより）

## ○実技指導のイメージについて

高血圧の利用者・・・味噌汁に入れる味噌の量はどの程度か

糖尿病の利用者・・・ご飯1杯の量はどの程度か（軽く1杯は、どの程度か）

1食にどの程度の量のご飯を食べたらよいのか

等、普段の食事及び調理の様子を確認し、それぞれの利用者の様態を考慮した上で、塩分量等の分量が適切かどうかを専門的な見地からアドバイスする。

## ○サービス利用者にとってのメリット

会話による説明だけでなく、実際に計量等の実技指導を受けることで、

『体験』ができ、理解度を深めてもらえ、指導内容をすぐに実生活に取り込んでもらいやすくなるのが期待できます。

## ○サービス利用者にとっての負担

実技指導を行う場合の必要な食材については、利用者側が用意する。

## ○その他

### (i) サービス単価及びサービス提供時間について変更なし

現行のサービス提供時間である1時間以内のできる範囲で行い、伝えきれなかった内容等は、担当ケアマネジャー等を通じて他のサービスと連携ができるようにする。

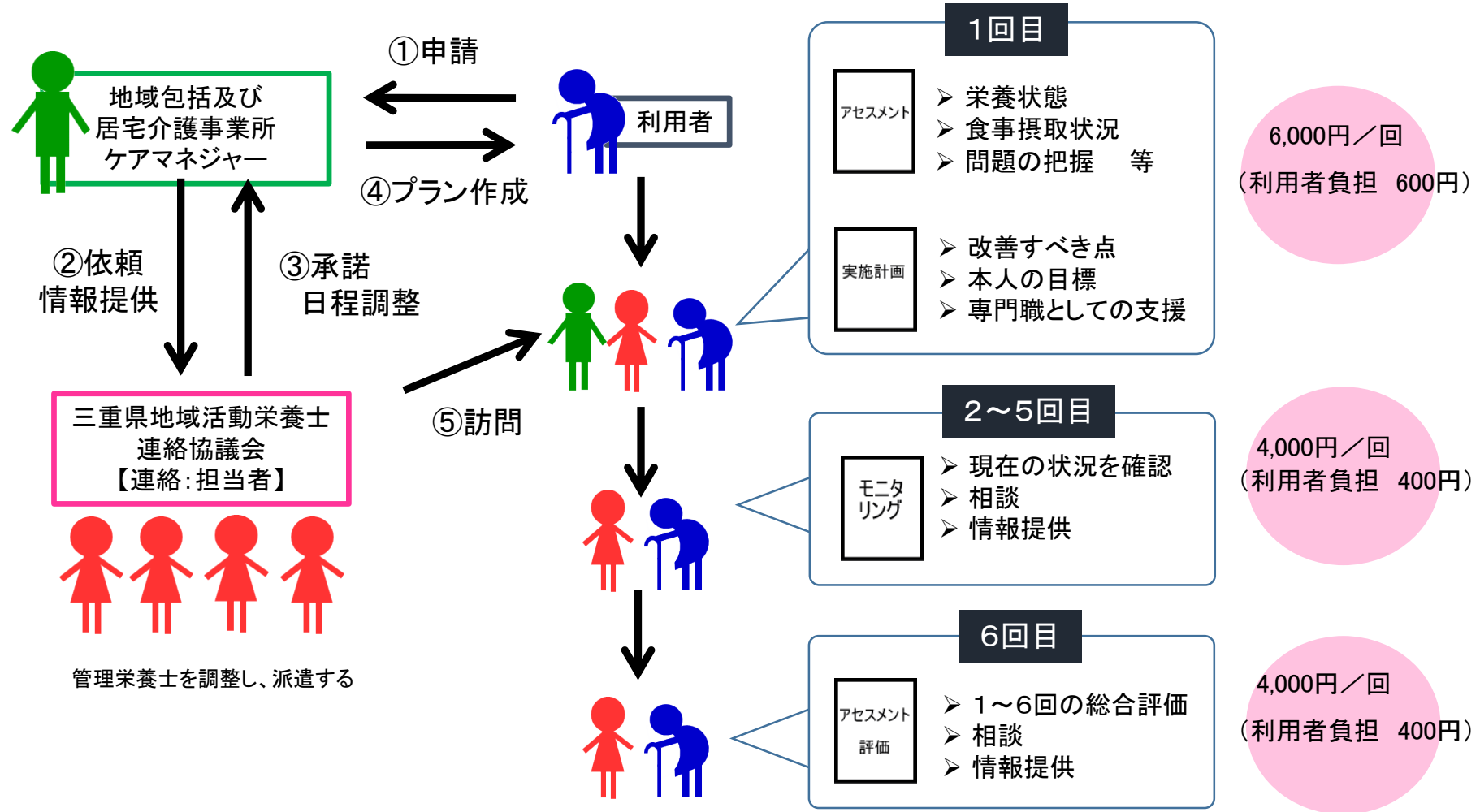
### (ii) 実技指導についての回数制限は設けない

利用者によって様態が異なることが予想されるため、訪問6回の内の制限回数は設けず、状況に応じたサービス提供ができるよう柔軟性を持たせた運用とする。

## ○注意事項

食事の提供ではなく、調理過程の一部分の実技指導であり、食事療法の技術を日常にとり入れてもらうための指導となる。料理を作って食べることが目的ではないことを理解してもらう必要がある。

# 介護予防・日常生活支援総合事業 訪問型サービス事業 ～栄養いきいき訪問～ 概要



# 総合事業 訪問型サービス事業 ～おいしく食べよう訪問～ 概要

